



人間社会学部 人間社会学科 2回生

佐田 詩織

"文武両道"をめざして。

●本来の自分を取り戻し、仲間と一緒に成長できる

中学・高校と陸上部でスポーツに打ち込んできました。顧問の先生の厳しくもあたたかい指導を受け、また後輩を教えることが好きだったこともあり、次第にスポーツの指導者になりたいと考えようになりました。

「大学では勉強もがんばって"文武両道"をめざそう」。そんな思いで訪れた大阪大谷大学のオープンキャンパス。先生は皆親切だし、クラスは少人数でゆったりとしているし、「ここでなら落ち着いて勉学に励むことができる」と感じました。

実際に、大阪大谷は先生との距離が近く、親身になって相談に乗ってくれます。キチンとした上下関係はありながらも、先輩後輩の区別なく、仲が良いのも特長です。のびのびと過ごせる環境で、今まで以上に、「本来の自分を出せている」と感じられるほど。友達も普段はふざけあってばかりですが、悩んでいるときは真剣に聞いてくれます。教員をめざすという同じ志を持つ者同士、高めあっていくことができるのもいいですね。

「仲間がいるから、今の自分があるんだなあ」と、改めて実感しています。

●地域クラブや母校などでのスポーツ指導のほか、学童保育の手伝いも

大学でも陸上部に入ったのですが、練習は週3～4日程度。空いた時間は、先輩に紹介してもらった地域のスポーツクラブで毎週、アシスタントコーチをしています。

<地域研究実習（社会研究実習）>では、母校である中学校を訪問。生徒から「先生」と呼ばれ、照れくさいような、うれしいような……。校長先生からは「教師の魅力は、子どもの人生に関わっていける仕事」と言われ、「まさにその通りだ」と、身も心も引き締まりました。

ほかにも、教職支援センターの「教師のお仕事入門」というプログラムで、小中高のさまざまな学校でいるいるな授業の見学に行ったり、学内に掲出されたポスターを見て、障害がある子どもと接する「夏休み教室」にボランティアとして参加したり……。陸上部の引退後のことを考えて、学童保育を手伝うボランティア活動もはじめました。

さらに、昨年には富田林市にオリックスの2軍の練習場ができたことから、ファンの人たちにアンケート調査・集計をして、会議でプレゼンする機会にも恵まれました。カリキュラムでも模擬授業など、発表する場も多く、プレゼンテーション力を磨くことができます。

私がめざすのは、子どものことをよく見て、的確に指導し、やる気を引き出す、そんな子どもたちの心に残るような先生。そのために必要となる、指導力や対話力、プレゼンテーション力を高められる環境が、ここ大阪大谷にはあります。

※学年は2013年2月取材時点

